農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

八千代市長 服部友則
(公印省略)

市町村名 (市町村コード)	八千代市 (12221)
地域名 (地域内農業集落名)	神野 (神野)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月20日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

田と畑がほぼ2:1の面積で、北部の新川沿いに田が広がっている。田は平成5年から7年にほ場整備を行い、大区画となっている。遊休農地が地区の5%以下であり、他地区に比べ少ない。
営農意向について、現状維持を志向する経営体が多い。耕作者の8割以上が集落内に居住し、かつ、高齢化が進んでおり、後継者不足の課題もある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

田では、主食用米を生産し、畑では、露地野菜を中心に様々な野菜を生産している。現在、多品目栽培や直売が主流となっている。
八千代市農業協同組合とも連携しながら、消費者のニーズに合わせた栽培作目の検討を行う。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	49.77 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	49.77 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

神野地区の農地のうち、協議の場にて策定することが決定した農地。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
話し合いを継続し、耕作者の意向を把握しながら、集積、集団化を検討していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
耕作者の意向を把握しながら、中間管理機構の利用を検討する。
(3)基盤整備事業への取組方針
畑については、形状が悪かったり、起伏がある農地があるため、改善に向けて研究する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新規就農者を呼び込むなど、耕作者の確保を目指す。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
調査・検討中

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

なし